

Angel's Voice

パイプオルガン奉獻1周年を迎えて

神戸教区招聘オルガニスト セシリア 井原 由紀

時が経つのは早いもので、神戸聖ミカエル大聖堂にパイプオルガンが入ってから、もう1年になります。いわゆる初期症状というものが多発したこともあって、イギリス生まれのこの楽器が、日本の高温多湿の環境に耐えてくれるのかどうか、とても心配なところでしたが、幸い大きな問題もないままに、今年の夏を乗り切ることができました。今後、秋から冬にかけての気温の低下と乾燥による気候の変化を無事に乗り切って、神戸に早く馴染んでくれることを祈るのみです。

そういう私は、日本の暑さに耐えられず、例年の如く演奏旅行と称して、ヨーロッパに避暑に行くつもりでございました。が、到着してびっくり！今年のロンドンの夏は猛暑で、その上クーラーもないので、暑い中での猛練習となりました。ちょうど第1次世界大戦の記念礼拝の時期に重なっていたため、私もピンチヒッターを頼まれ、急遽ミサで弾かせていただくことになりました。今年は、その開戦から100年になりますので、多くの行事や特集が組まれているようでした。ロンドンは大戦中に空襲の経験があり、戦時中の兵士の過酷な体験も語り継がれていますので、違う角度から歴史を再認識する機会となりました。

そして私の第2の故郷とも言うべき(?)パリ。この冬のコンサート・シリーズに引き続き、演奏をして参りました。やはりフランスのシンフォニック・オルガンは違う！と改めて実感しました。フランスのロマン派から近代にかけてのスケールの大きな作品を巨大なオルガンで弾くと、音も響きも素晴らしく、作品に対する新たな発見もありました。今年はパリの数々の主要な教会でコンサートや試奏の機会をいただき、沢山のオルガンと出会った年になりました。その中でも特に印象に残ったのが、ダ・ヴィンチ・コードの舞台となったサンシュルピ

ス教会、外装の美しいサントウスタッシュ教会、メシアンがオルガニストを務めたことで有名なトリニテ教会のオルガンです。サンシュルピス教会とトリニテ教会には、それぞれ大きなカヴァイエ・コルのオルガンが入っていて、その素晴らしい音色を堪能することができます。ただ、オルガンの音が綺麗に聞こえる場所というのは、その楽器から離れた場所ということになりますので、演奏者には実際にどの様に鳴っているのかわからないこともしばしばあります。そこで面白いのが、サントウスタッシュ教会。このオルガンには、上下に演奏台がありますので、下で弾くと実際にどの様に鳴っているのかを把握しながら弾くことができるのです。ただし、楽器(上)と演奏台(下)が離れていると、弾いてから実際に音が聞こえてくるまでに時間が少しかかるため、それに慣れるのが大変でした。

帰国してミカエルのオルガンを弾いてみて、このイギリスのオルガンの柔らかな優しい音の響きを最大限に生かすことのできる作品を少しずつご紹介できたら、という思いに至りました。同じ曲でもオルガンによって全然違う響きになったりするものなのですが、この曲はミカエルで弾くととても綺麗だな、と思えるものがいくつかありますので、今後、幾度か聞こえてくる作品がありましたら、ミカエルのための選曲リストに入っている可能性が大です(!)。

神戸聖ミカエル大聖堂では、マンダー社製の新しいオルガンをめぐって、試行錯誤の日々が続いております。不足しがちな奏楽者の養成を緊急課題として掲げておりますが、月に1度行われる教区レッスンでは、様々な角度から題材をとり、情報を共有しています。受講生の方々の上達ぶりも楽しみなところですが、その中から将来の奏楽者を多く輩出できたら、と願わずにはいられません。ちなみに、このレッスンには、オルガンに興味のある方ならどなたでも参加できますので、お気軽にお申し込みください。

マンダーオルガンってどんな楽器？Part 2

前号につづき、マンダー・オルガン社公認ビルダー・大久保壮介さんにお話をうかがいました。少し専門的な話になりますが、ミカエルのオルガンには英国製ならではの特征があるようです。

Q1.マンダーオルガンは、「温かみのあるやわらかく優しい音が特徴」と言われましたが、そういう音を作り出すために、何か特別な工夫をされているのですか？

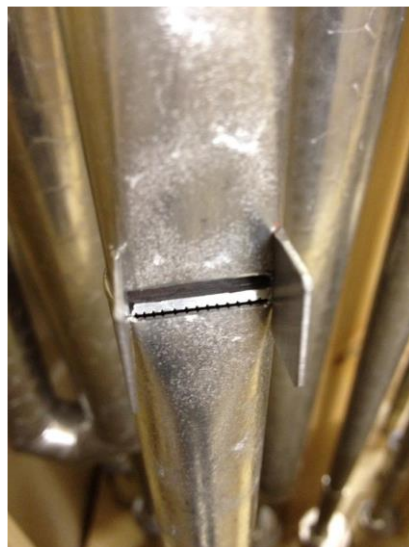
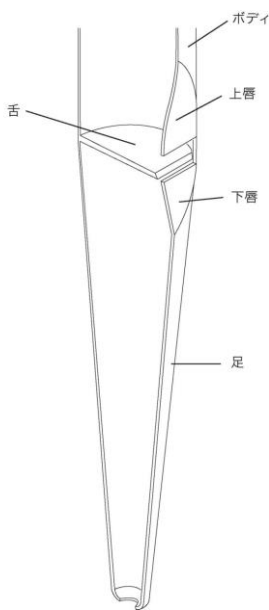
大久保氏(以下、A)：どの国でつくられたオルガンもパイプの構造はほとんど変わらず、それはリコーダー(縦笛)と同じ原理です。

足から入った風は下唇と舌との間の細い隙間を通り、上唇にぶつかります。

この時、上唇ではパイプのボディ内に入っていき風と外に出て行く風に分裂され、エッジトーンと呼ばれる音がつくられます

エッジトーンには鋭い破裂音のようなチフ音(アタック音)や雑音が含まれていますが、パイプ内の舌にニッキングと呼ばれるV字型の筋を入れることによって、風の流れが変わり、チフ音は少なくなると共に、音色が柔らかくなります。ドイツなどのオルガンではこのチフ音はそのまま音色の個性として残すことが多いのですが、イギリスのオルガンビルダーはパイプの出すべき音がチフ音に妨げられているという考えからニッキングを施し、チフ音と雑音を減らした柔らかい音をつくるようにしています。

ニッキングはパイプの種類により舌だけではなく、下唇にも施される場合があります。また木で作られた木管パイプも同じようにニッキングによってチフ音を調整します。



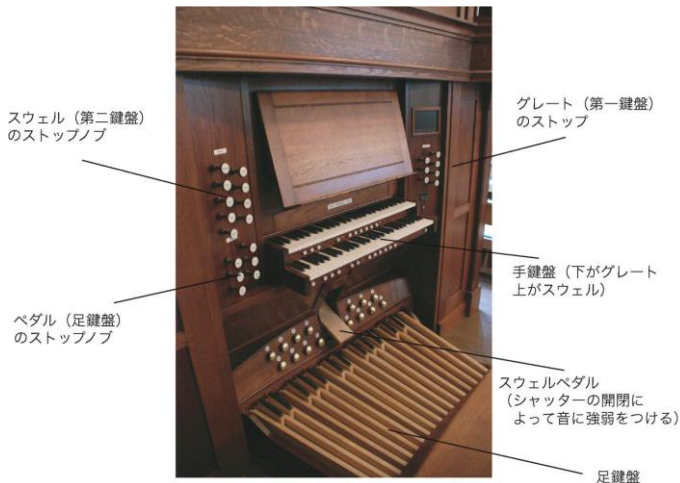
舌と下唇にニッキングの入ったパイプ



ニッキングの入った木管パイプ

Q2.ミカエルのオルガンでは、右側にグレイト鍵盤(下段・第1鍵盤)のストップ、左側にスウェル鍵盤(上段・第2鍵盤)のストップと足鍵盤のストップが配置されていますね。このような配置には、何か理由があるのですか？

A: 英国国教会の大聖堂やケンブリッジ、オックスフォード大学の各カレッジチャペルでは旧約聖書にある150編の神を讃美する詩「詩編」に音楽をつけたものを礼拝で歌うことがよくあります。ひとつひとつの詩編にはそれぞれいくつかの節があり、節の詩の内容によって大きく歌う節、小さく歌う節に分かれます。オルガンも同じように音色、音量を調整しながら伴奏する必要があります。



シャッターの開閉により音量の強弱を変えることのできる、また比較的ソロでも使える穏やかな音色の揃ったスウェル鍵盤 (第二鍵盤) を右手で弾き右足でそのシャッターの開閉を行うペダルをコントロールし、左足で足鍵盤の低音部を弾きます。

空いている左手は演奏台左側にあるスウェル鍵盤と足鍵盤の音色を変えるストップノブを操作します。これにより詩編の節ごとに音色を適切に変えて行く事ができます。

このような理由からイギリスのオルガンには左手にスウェル鍵盤と足鍵盤のストップノブが配置されています。もちろん例外もありますが・・・

Q3.大きなオルガンに向う時、小柄なオルガニストには、椅子の高さと足鍵盤の形状が時に苦勞の種となります。そこで、椅子は高さ調整のできる物、とお願いしました。また足鍵盤は放射状に広がっていてとても弾きやすいと感じますが、イギリスのオルガンには、放射型の足鍵盤が多いですね。

A: 実はイギリスのオルガンに足鍵盤が導入されたのは1800年代と遅く、ドイツからイギリスにやってきたG.F.ヘンデルもこれには驚いたのではないかと思います。

ヨーロッパ大陸で頻りに使われていた平行型とは別のタイプの放射状型が1850年頃にイギリスのオルガンビルダー・ヘンリー・ウィリスによって設計されました。これは後にアメリカのオルガンにも発展していきます。放射状型は人間工学に基づいたデザインで低音部と高音部に足が届きやすいという利点があります。イギリスではこの放射状タイプが定着していますが、鍵盤の手前の方が狭いので弾きにくいという意見もあ

り、平行型を採用しているオルガンもあります。オルガニストが何処の国でこういったタイプのオルガンで勉強したかにより、自分に合った足鍵盤は平行型か放射状型かが決まるようです。現代の電子オルガンでは放射状を採用しているタイプが多く、パイプオルガンを専門に勉強された方以外でもスムーズにパイプオルガンへ移行して頂けるのでは?という思いもありミカエル教会の足鍵盤も放射状型になっています。



放射型足鍵盤



平行型足鍵盤

(質問者：原田 里香子)

行事報告

パイプオルガン委員会主催オルガンレッスン報告

5月 (9人)、6月 (9人)、7月 (12人)

9月 (9人、見学1人)、10月 (5人)

5月～7月は課題曲として聖歌2曲を選び、互いの演奏を聞いて学びました。

9月、10月の課題は自由曲、

11月、12月は礼拝で使えるアドヴェントのコラール・ヴァルター作曲の「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」を提案課題曲としています。

神戸教区内オルガニスト、興味のある方はどなたでも受講、見学が可能です。

お問い合わせ：神戸教区事務所 大東主事まで

日本オルガニスト協会主催 オルガン見学会

8月29日(金) 13:15～

神戸聖ミカエル大聖堂をはじめ、近隣教会の
パイプオルガンを巡る見学ツアー。

オルガン説明：大久保 壮介氏

オルガン演奏：井原 由紀氏

関西在住の協会メンバー約20名が参加。

ミカエル教会のオルガンレッスンスタート

7月からミカエル教会オルガニストを対象とした
レッスンを土・日曜日各1時間で開始しました。

コンサート報告

5月10日(土)18:00～ Chor Meise 演奏会

～パイプオルガンの響きとともに～

主宰・指揮：前原 克彦氏

合唱：コールマイス

オルガン：片桐 聖子氏

曲目：J.ラター「アンセム集」、他

6月14日(土)14:00～ 神戸市・リガ市

(ラトヴィア)市姉妹提携40周年記念

神戸市混声合唱団とリガ室内合唱団

「アヴェ・ソル」のジョイントコンサート

オルガン：中山 幾美子氏

曲目：我らに平和を与えたまえ、他

10月25日(土)15:00～

奉獻1周年記念コンサート

～天使からの贈り物～

オルガン：井原 由紀氏

ヴァイオリン：原田 亮子氏

曲目：L. ボエルマン「ゴシック組曲 p.25」

他

唱詠夕の礼拝のご案内

大聖堂聖歌隊と一緒に歌う唱詠夕の礼拝を
奇数月・最終土曜日 17:00～行っています。

聖歌隊指揮・ソロ先唱：喜多 ゆり氏

次回：11月29日(土)17:00～

どうぞご参加ください。

楽譜紹介

Seasonal Chorale Preludes

for Manuals only

♪Book1 : Advent, Christmas, Epiphany,

Lent, Passiontide and General 全27曲

♪Book2 : Easter, Whitsun, Trinity,

Festivals and General 全26曲

Edited by C.H. Trevor

Oxford University Press

J.G. Walther, J.S. Bach などドイツバロック作
曲家のコラール前奏曲の小品(手鍵盤用)が収め
られています。レジストレーション指示がある
ので、音作りの助けになります。コラール前奏
曲を弾く時は、教会歴に相応しいかどうか注意
が必要ですが、この曲集は教会歴順にまとめら
れているので大変便利です。

【編集後記】

「オルガンのある所へ出かけて行かなければ
練習できない」という楽器の宿命ゆえ、オルガ
ニストは「いつでもどこでも快適な環境で弾け
る」という事は望めません。全身汗だくになり
ながら、指や足先をかじかませながら、暗がり
の中で、というのも特別ではありません。ロン
ドン生まれのミカエルオルガンも温度差、湿度
差の激しい日本の気候の影響を受けました。音
が出なくなったり、鳴りっぱなしだったり、ハ
ーモニーが美しく鳴らなかつたりと、楽器も悲
鳴をあげたかのような1年でした。弾いている
と、まるで一緒に呼吸をしているようにも感じ
ます。

私たち奏楽者の口の言葉とパイプの音色が福
音を伝える事ができますように、聖堂に來られ
る多くの方々に福音が伝わりますように、と願
います。
(原田 里香子 記)

パイプオルガン会報事務局 (神戸教区事務所)

〒650-0011

神戸市中央区下山手通5 丁目11番1号

☎078-351-5469 fax(078)382-1095

Email: aao52850@syd.odn.ne.jp

会報誌編集人 原田 里香子